

第14回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会が開催されました

2月15日（日）に第14回和歌山県市町村対抗ジュニア駅伝競走大会が開催され、湯浅町代表は29市町村中20位、オープンチームは出場45チーム44位でした。

湯浅町代表選手26名は多数の候補選手の中から選考され約4ヶ月にわたり、練習をおこなってきました。

僕は、ジュニア駅伝に2年連続で参加しました。小学生や陸上以外の外のクラブの人達と供に目標に向かって切磋琢磨しながら練習し、一致団結できたことが良かったです。そして、この経験を生かして高校でも頑張りたいです。また、サポートしてくれた関係者の方々に「ありがとうございました」と

心からお礼を言いたいです。

石関 正礼



僕は5年間このジュニア駅伝に参加させてもらいました。この駅伝を通じて努力をするこの大切さを学びました。駅伝は自分にとって嬉しいこととあり、悔しい思いをしたりと、たくさんの経験を与えてくれたスポーツでした。

このような経験をすることができたのも監督やコーチ、チームメイト、支えてくださった人達のおかげであり、本当に感謝しています。

駅伝で学んだ事や感謝の気持ちを忘れず、これからの高校生を頑張っていきたいと思っています。今までありがとうございました。

牛居 優丞



私は今年初めてジュニア駅伝に参加させてもらいました。駅伝について、何も分からなかった私に監督やコーチなどたくさんの方が技術面など細かい所まで丁寧に教えて下さりました。

練習やタイムトライアルでは、タイムが上がっていく度に嬉しくて、「もっと頑張ろう」と思いました。駅伝で学んだあきらめない事、仲間と力を合わせる事、

仲間を信じることを忘れず、高校生活や柔道にも活かしていきたいです。中学校生活の終わりにとても貴重で有意義な経験ができました。

小松 涼



最上級生としてチームを引っ張ってくれました選手の感想を紹介します。

私は中学1年、3年と2年間Jr.駅伝に参加させてもらいました。1年の頃は走ることが好きではなく、練習がとて辛かったです。しかし、3年になって、走らなくなると、なんだかとてもさみしくて、Jr.駅伝参加を決意しました。

受験勉強との両立は、大変でしたが、周りの友達を支えてくれ、監督はじめ、コーチの皆さんやスタッフの皆さんにアドバイスをいただき、のりきることができました。Jr.駅伝で学んだこと。それは、一生懸命努力すること。感謝の気持ちを常に持つこと。仲間を大切にすること。仲間を信じるということ。です。監督やコーチの皆さんに、一

番伝えたいことは、駅伝という素晴らしい競技、スポーツに出会わせて、ありがとうございました、ということ。感謝の心を忘れずに、一生懸命に何事にも取り組める、そんな大人へとこれから成長していきたいと思っています。

応援くださった湯浅のみなさん、ありがとうございました。

竹井 華音



僕はジュニア駅伝に4年間出場させてもらいました。その中で、駅伝と言う競技は、マラソンとは違う所を教えられました。何が違うのかと言うと、タスキを繋ぐと言うことです。しかも、このタスキにはみんなの思いがあり、最後の最後まで繋ぐんだと言うのを学びました。

僕は毎年駅伝に出たかないと言う気持ちがありながらもなぜか毎年出ていました。でも毎年残るのは、やりとげた時の達成感

感がすごくうれしかったです。僕はこれから先もこの達成感や仲間と頑張ってきたことを忘れず、これから先、どんなことがあっても頑張っていきたいです。

丸井 大河

